

# 上山集楽

## みんなのモビリティプロジェクト

住民の主体性を高めることが、事業を継続し、  
社会の変化に対応しうる地域をつくる。

プロジェクト成果報告書





上山地区概要



かつて8300枚の棚田をもち高度経済成長とともに荒れ果てた。2007年、関西圏に住む都市住民によって組織された英田上山棚田団(2012年にNPO法人化)が、地区の棚田保全に不可欠な水路掃除等の支援を行ったところから活動が始まる。のちに耕作放棄地となった棚田や空き家の再生にも活動を展開。美作市としても2010年に地域おこし協力隊を導入しサポートしたことで外部支援者や移住者が着実に増加していく。地区人口153名のうち、2010年以降の移住者は40名を超えている。



プロジェクト概要

100歳を過ぎても暮らし続けられる地域を目指す。課題や生活者のニーズを明らかにし、地域住民が主体となって継続的に取り組める解決策を検討するために住民へのヒアリング調査を中心に、以下の3つのチームを作りプロジェクトを実施。

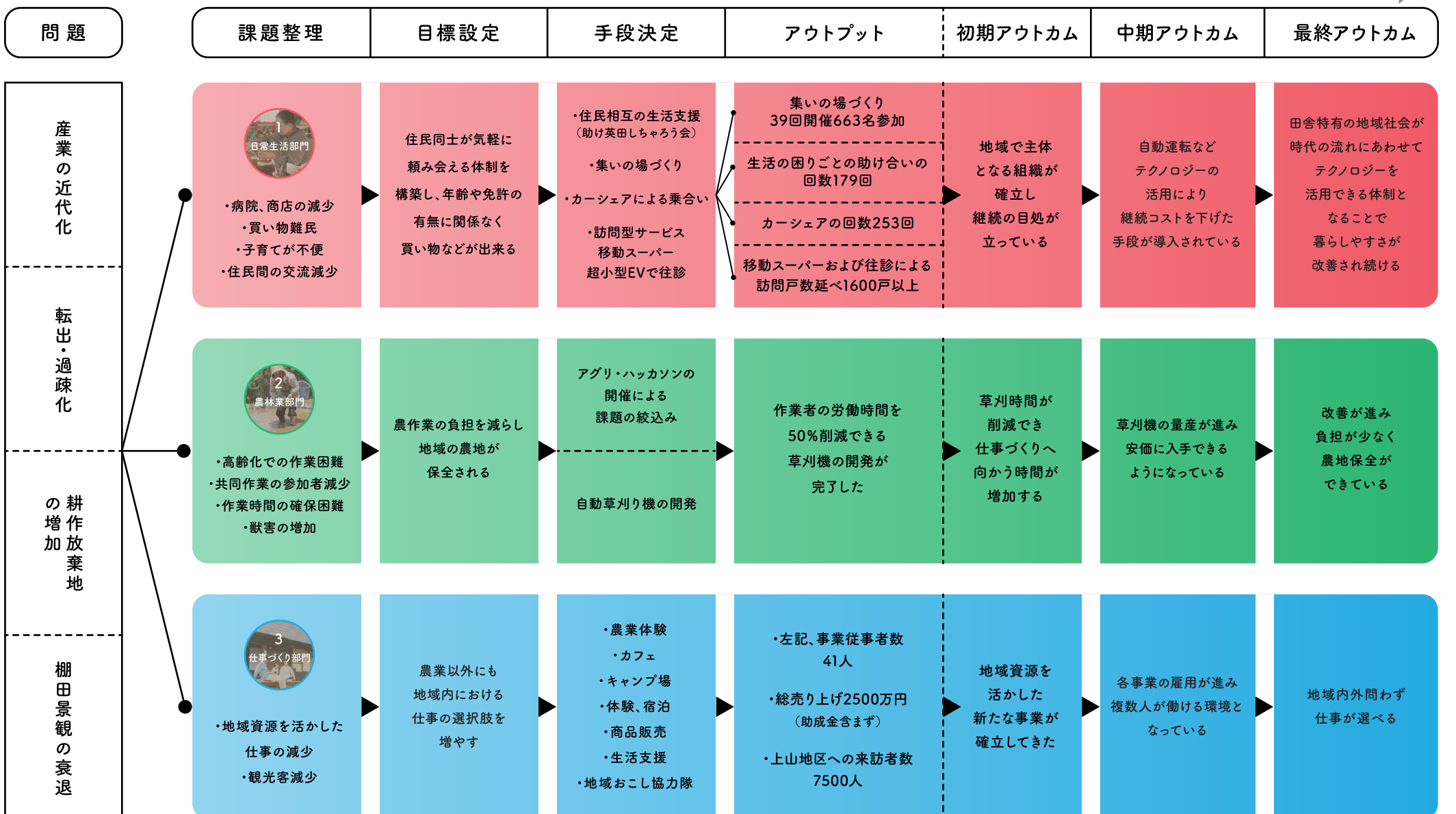


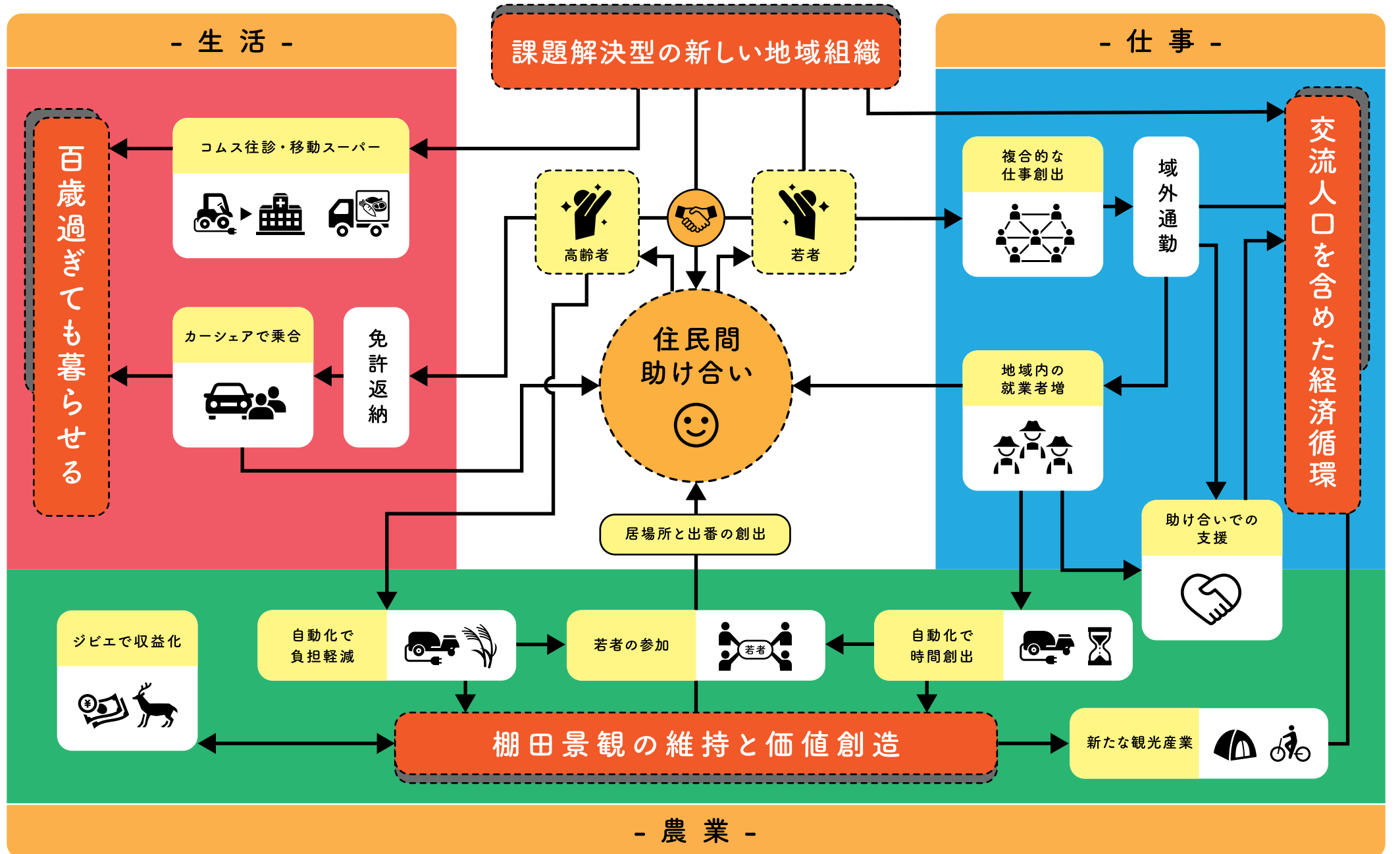
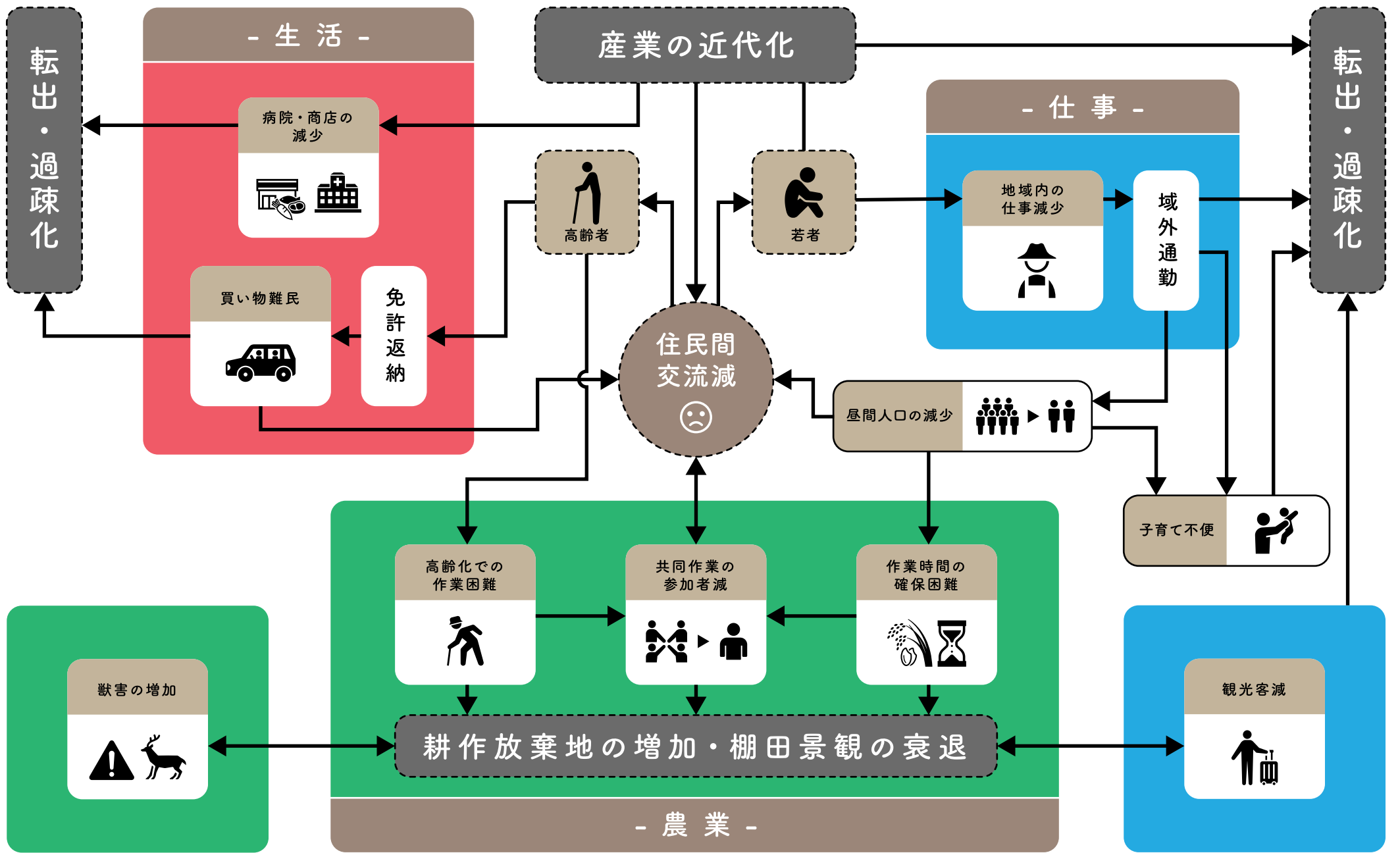
プロジェクトロジックツリー

以下の各問題について課題整理、目標設定、手段決定の項目を設け事業を計画・実行し、初期アウトカムへと繋げた。

プロジェクト期間で実施

プロジェクト後の展開







住民主体の組織＝助け英田しちょう会 設立

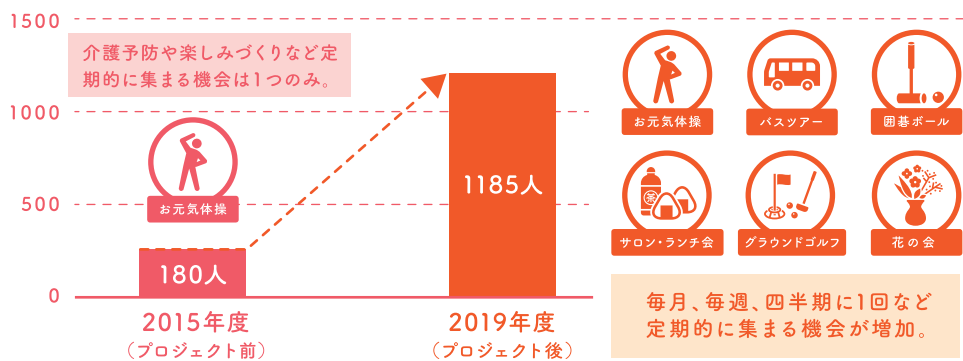


住民の集いの場づくりやお出かけツアー等の開催によって地域内交流を促進しつつ、移動支援及びその他日常生活支援の課題解決を行う。2017年5月より活動開始。地区住民153人の上山地区内において、2017年5月～2020年5月までの間で生活の困りごとの依頼は432件となっている

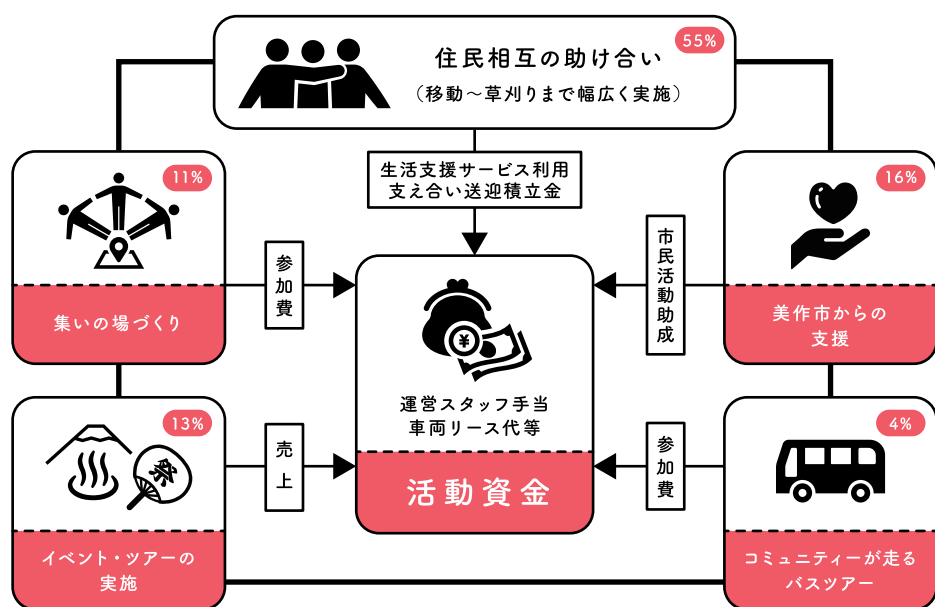
2017年5月～2020年3月で集計・2020年4月以降も活動継続中

<p>困りごとの助け合い (草刈り・子守など)</p> <p>179回</p>	<p>支え合い送迎 利用回数</p> <p>253回</p>	<p>コミュニティが走る バスツアー</p> <p>12回/延べ110名参加</p>	<p>集いの場</p> <p>39回/延べ663名参加</p>
---	--------------------------------	--	---------------------------------

上山地区の交流機会と参加者数



活動継続の仕組み (%は活動資金積立の割合)



上記の取り組みを既存の外部サービス(旅行会社のツアーやタクシー等)の利用のみで行うと「1,921,736円」の費用を要するが、住民相互の活動を組み合わせることで「625,093円」と約3分の1の費用で活動が可能となった。(2019年度実績をもとに試算)

プロジェクトを経て出てきた住民の声

助成金に頼るばかりでなく、自主財源を確保しながら活動をするのが大切。集いの場の企画や実施、協力者への声かけなどを重ねることで活動がしやすくなってきた。(64歳・女性)

「参加してくれる人、参加だけでなく準備から手伝ってくれる人といったように誰がどんなことで協力し合えるか役割が明確になった。」(67歳・女性)

買い物困難

我が家の縁側でお買い物



移動スーパー

岡山県内で移動販売を行う「いどうスーパーロンドン」のサポートを受けて上山地区内や周辺地域において移住者の女性2人が移動販売を開始。食料品の販売に加えて、住民の方との交流や地域の情報収集に役立っている。

「直接商品を見て、自分で選択して買う」という行為は、楽しくて有意義なアクティビティであり人生をより豊かに出来る。(移動スーパー小嶋)

実施日\_第二・第四木曜日  
目的\_買い物支援及び定期的な交流機会の創出  
実施回数\_82回(1回あたりの訪問戸数:20戸)  
(2017年1月～2020年5月実績)

百歳を過ぎても暮らし続けられる地域に!

見守り機能強化

通院困難

集落内をお医者さんが巡回



超小型EV「コムス」を活用した往診

移動が困難な方に向けて超小型EV「コムス」を活用した往診。集落内の道は狭く、危険箇所も多い。小回りが利く車両で医療者がスムーズに患者さんのもとへ行ける手段を確保。社会医療法人清風会に所属し上山地区在住の玉井医師が往診を行う。

「操作性のしやすさはもちろんのこと、駐車スペースが限られるお宅も多い中、少しの空きスペースがあれば車を停められることも訪問をする上ではメリットとして感じられる。」(玉井友里子医師)

実施主体\_社会医療法人清風会「湯郷ファミリークリニック」  
実施日\_毎週水曜日

CHECK! 主体があり、交流があつてこそ、住民間で連携して生活支援の取り組みが可能となる

住民同士が支え合って移動の足を確保

通院・買い物困難

カーシェアによる乗合い

利用者は1km乗ったら100円の積立てを行う。足りない分の経費はイベントの売り上げやランチ会、お出かけツアーの余剰金で補填。万が一、活動経費よりも多くのお金が集まった場合は年に1度「清算」を行い、利用率に応じて返金。白タク行為となることを防止するため、送迎による利益を出さない。

使用する車両\_助け英田しちょう会がリースした軽自動車1台を会員でシェア  
自動車保険\_リース車付帯の保険(対人対物無制限・人身傷害3000万円)  
ドライバー\_事前に運転者登録をしたボランティアドライバー

年間活動経費	■ランチ会やバスツアー参加費の余剰金 ■イベント売り上げ等	地域で楽しみをつくり補填する
車両リース料・自動車保険料	支え合い送迎の利用による「積立金」 1kmあたりの利用で100円ずつ積み立てていく	
役員手当・集いの場の会場費等	1km ¥100 積立	

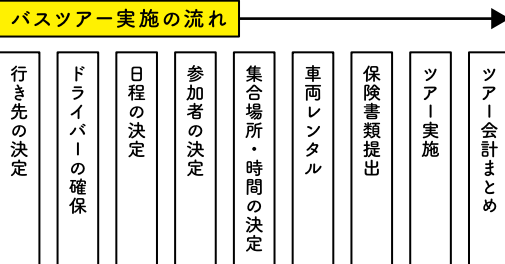
近いうちに免許返納を予定しているの、いざという時は私も送迎を頼みたい。(88歳女性)

移動しながら交流を楽しむ!

交流・外出ニーズ

コミュニティが走るバスツアー

地域内の気心の知れたメンバーでちょっと遠くにお出かけ。日常生活の中の息抜き・気分転換を行う。移動の間も交流の機会となり、住民同士の関係性の維持や再構築を図る。住民相互に行う支え合い活動の促進効果も期待される。ドライバーは移住者等の若手が担い、新旧住民の交流の機会が増加。



ちょっと遠くに外出できる機会や集まりが無いと寂しい。(94歳男性)



半自走式草刈機

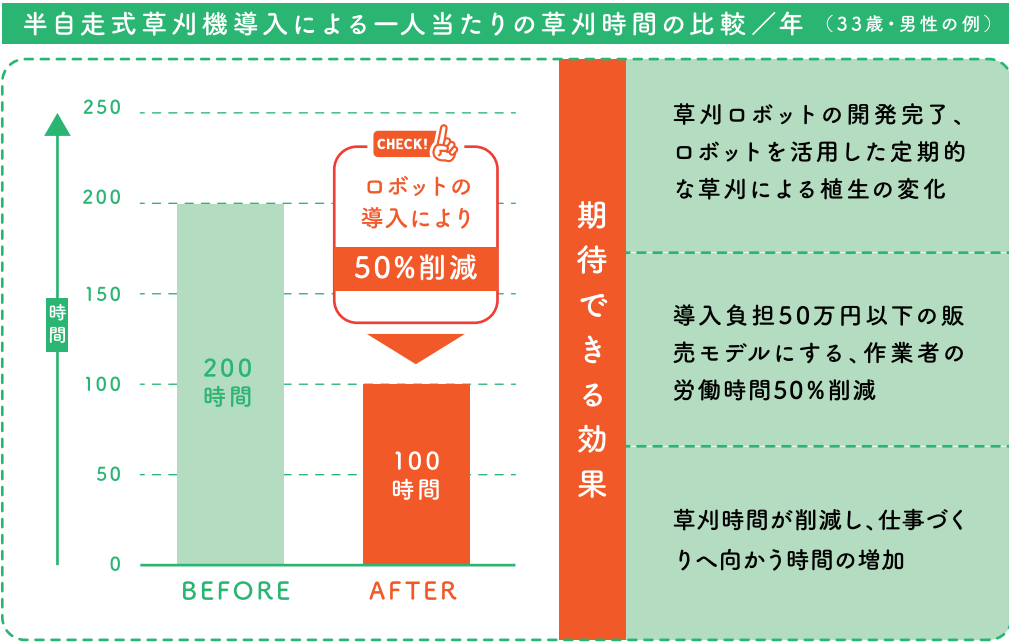


**安全** **労働力・時間削減** **作業者の負担軽減**

対応可能な法面角度 **20度** まで

充電所要時間 **5時間** 1回の充電で **2時間** 走行可能

刈草はそのままに土の下で分解される構造で発電する太陽電池駆動力



**狙い** 中山間地の草刈作業は、非効率的、一つの圃場が小さい、大型機器導入が困難である。このような農地において小回りが効き、決められた範囲の草刈作業を自律的に行う草刈機の開発で労働時間の短縮を図る。そして仕事づくりへ向けた時間を創出する。

**開催**

アグリハック in Ueyama  
～農業×モビリティ×ITで上山をHackする～



中山間地域の負担軽減を目的に、企業や専門家とともに農業系ハッカソンを開催した。



さらなる課題の絞り込みとして「草刈」に焦点を当て、別途資金調達

産業総合研究所、筑水キャニコム、太平洋産業貿易の協力のもと、自律移動ロボット技術を用いた半自走式草刈機の開発

半自走式

**結果** 草刈りを効率化し、仕事づくりへの時間を増やす

**プロジェクト担当者・井上のコメント**

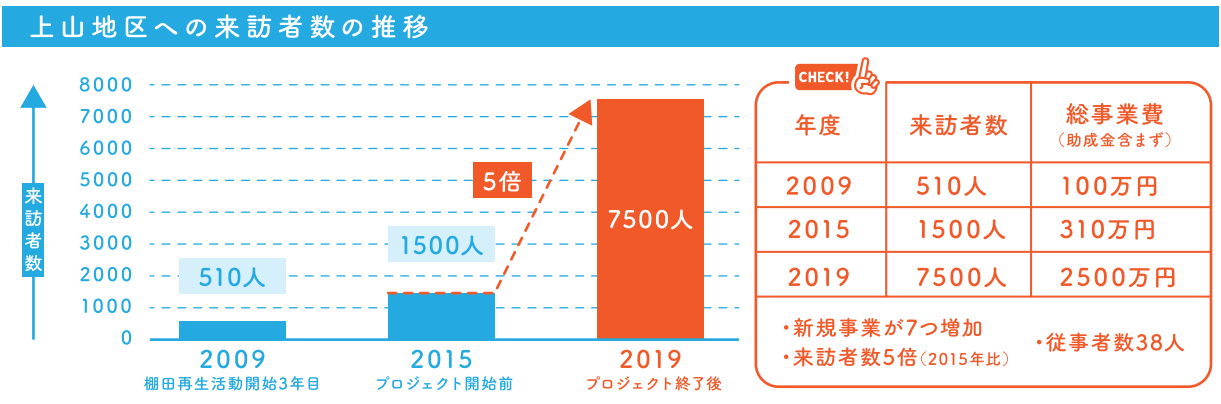
ロボットで草を刈るのは安全で身体にも負担は少ない。ロボットを活用し、継続的に草刈をすることで農地管理の手間を省きつつ景観がよくなる。地域資源を活かした仕事づくりへも積極的に取り組める時間が増える。

地元住民 + 棚田団 + 当プロジェクト

棚田の共同作業や当プロジェクトが地元住民と移住者を主体とする組織の成立を促した。

棚田再生活動を通して移住者同士がお互いに事業を支えあっている。

課題	空家・耕作放棄地・高齢化・担い手不足・獣害・商店の不足・社会インフラ網の劣化						資源
	移住者・棚田・山林・ジビエ・野草・景観・体験フィールド・農作物・遊休施設・祭り						
<b>農業体験</b>	<b>カフェ</b>	<b>キャンプ場</b>	<b>体験・宿泊</b>	<b>商品販売・開発</b>	<b>生活支援</b> (みんなの孫プロジェクト)	<b>地域おこし協力隊</b>	
NPO活動への参加 棚田暮らしの知恵の習得 地域住民との交流	地域食材の活用 地域の窓口機能 カフェ業務	焚き火・アウトドア DIY・フェス マウンテンバイク	野草・ジビエ 木工・農作業	お米・お米加工品 野草茶・にんにく 木工・わら細工・鹿革	家の周り、田畑の草刈 小さな困りごとの解決 高齢者との対話を重視	アパレル製作 狩猟活動	
従事者数 4人	従事者数 2人	従事者数 7人	従事者数 8人	従事者数 7人	従事者数 7人	従事者数 3人	



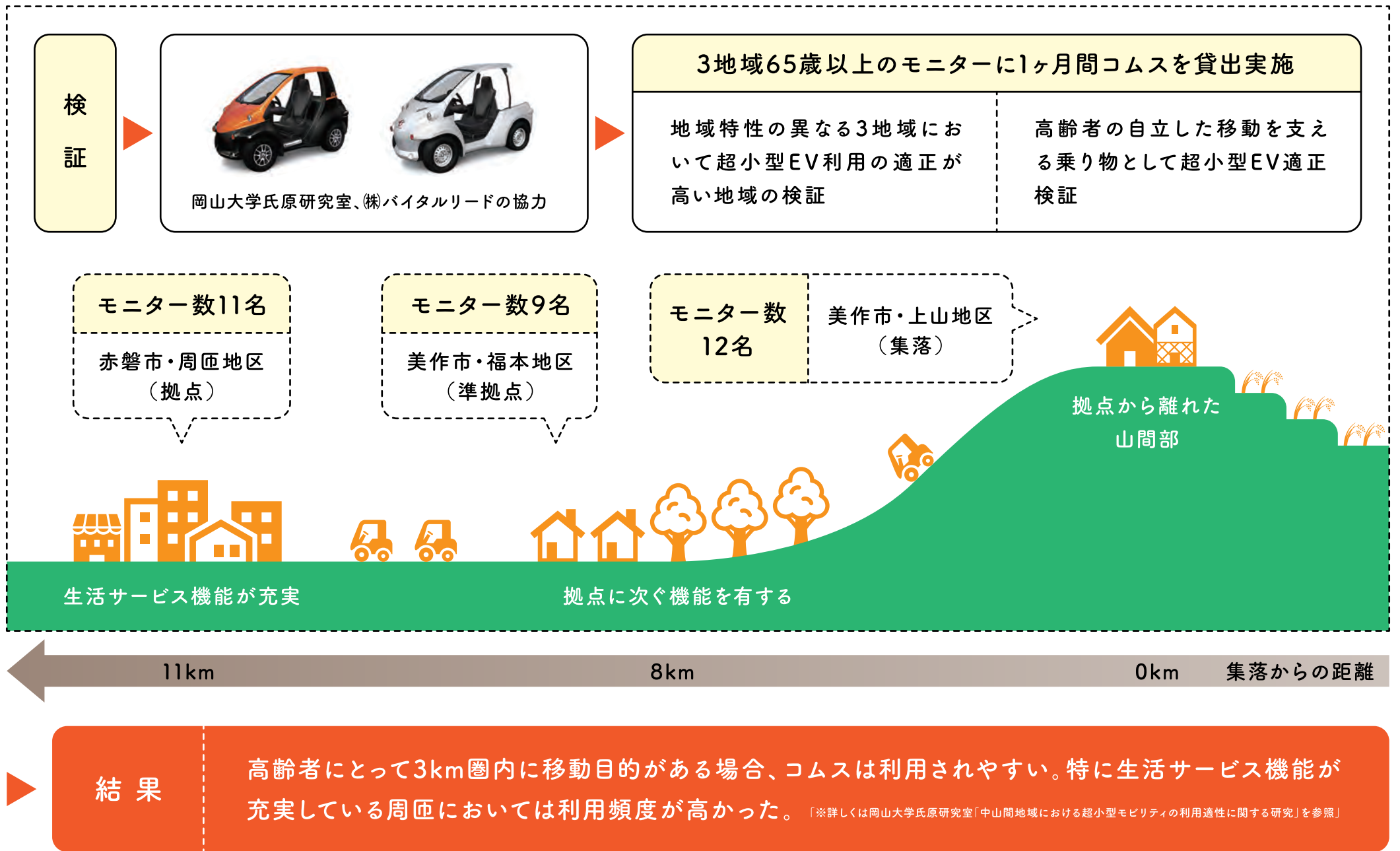
キャンプ場の売り上げが地域経済や雇用に繋がってきた

**キャンプ場オーナー・三宅さんのコメント**

キャンプ場の売上が向上し、安定したので地域住民から野菜を仕入れるなど、さらに地域との関わりを増やしていきたい。



## 中山間地における超小型モビリティの利用適正



## 上山地区における超小型モビリティの農業、観光への活用

コムス導入	10台	5台	基本性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人乗り</li> <li>・家庭電源で充電可能</li> <li>・積載重量30kg</li> <li>・全長2395mm、幅1095mm</li> <li>・50km走行可能、最大速度60km(時速)</li> </ul>	特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作性が高い</li> <li>・駐車スペース小</li> <li>・ドア無し</li> <li>・維持費が安い</li> <li>・CO2排出ゼロ</li> <li>・ガソリンスタンド不要</li> </ul>
-------	-----	----	------	---	----	--



	農 業	観 光
メリ ット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田んぼの見回りや水路管理、狩猟の罠の見回りでは道路脇のスペースに一時的に駐車して作業を行うことが多いが、小型のため他の車の邪魔になりにくい。</li> <li>・集落内の狭い道で他車とすれ違う際や行き止まりの場所でUターンが必要な際の操作性が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて上山を訪れた人でも、側溝が多く狭い集落内の道を安心して走ることができる。</li> <li>・運転に不慣れな人でも操作が容易。</li> <li>・散歩する感覚でじっくり地域を見て回ることが出来る。</li> <li>・自然環境、道路環境、地域住民の暮らしへの負担が少ない。</li> </ul>
デ メ リ ット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に使用頻度の高い農機具(草刈り機やクワ等)が載せにくい</li> <li>・舗装されていない農道では走りにくい(2駆のため)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人乗りのため隣席などでの案内が出来ない。</li> <li>・地区内にある温泉宿泊施設やキャンプ場のファミリー客には1人乗りモビリティは不向き。</li> </ul>

上山地区における  
今後のコムス利用

- ①上山地区内で仕事(農業や医療福祉等訪問サービス)に従事する者の移動を円滑化。
- ②来訪者(民泊利用・イベント参加・視察等)が地域内を散策する際の手段として活用。
- ③他地域に向けてもコムスのレンタルを展開し、プロジェクトで得た知見を活かしてコムス利用のサポートを実施。



# 上山集 楽 みんなのモビリティプロジェクト



みんなの  
集落  
研究所



・ NPO法人英田上山棚田団 \_ <http://tanadadan.org/>

岡山県上山地区



■ 飛行機でお越しの場合  
岡山空港から車で約1時間

■ 車でお越しの場合  
和気IC(山陽自動車道)/美作IC(中国自動車道)から車で約30分

■ 電車でお越しの場合